

KEIWA COLLEGE REPORT

第 53 号

January 2008

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学後援会
敬和学園大学広報委員会



ようこそ! 敬和へ

CLOSE UP

「心躍る出会いとともに」 共生社会学科 青山良子

第17回 敬和祭・ふれあいバラエティのご報告

災害ボランティアに参加/「富塚・のぞみの里」が誕生します

国際交流インストラクター事業/大学の危機管理への取り組み

1・2年生保護者との懇談会・企業との就職懇談会のご報告

いよいよ本番! 2008年度入学試験/オープン・カレッジのご報告

2008

KEIWA COLLEGE REPORT

January 2008

発行所/敬和学園大学 〒957-8585 新潟市中央区南出末島1-19-1 Tel.0254-26-3636
印刷所/オウゴン印刷所 〒950-0963 新潟市中央区南出末島1-19-1 Tel.025-283-2151

KEIWA チャレンジ学生ファイル⑳



共生社会学科3年
五十嵐 久 珠

「歌う人生」

敬和祭にて (中央が五十嵐さん)

私は幼いころから歌うことが好きで、テレビに映る歌手と一緒に歌ったり、コマーシャルで流れる歌までまねしているような子でした。

中学で進路を決める時、担任の先生から敬和学園高校を薦められました。進路指導室で高校の紹介ビデオを見て、声楽部があることを知り、すぐに受験を決めました。今思えばなんて小さな動機だったのだろうと思いますが、当時の私には、とても重大なポイントだったのです。

高校では、さまざまな音楽に触れることができました。私はクリスチャンではなかったので教会に行く習慣はなく、讃美歌は高校に入ってから初めて歌いました。そんな中で、特にグレゴリオ聖歌のような宗教音楽に深い関心を持ちました。歌詞は、同じような言葉の繰り返しですが、全体的に綺麗で、落ち着く和音が大好きになりました。

敬和学園大学に入学して、合唱のサークルをつくろうかとも考えましたが、私にはそこまでの力はなく、大学外で歌える場所はないかと探しました。そして、ゴスペルの団体「ブラザー・タイスケ・マス・クワイアー」と出会い、歌っています。今の私にとって、神を讃美する歌は、ただ歌うだけのものではなく、もっと特別なものとなっています。

これまでの生活は、まさに歌と共に流れてきました。これから就職しても、いつまでも歌と共に人生を歩んでいきたいと思っています。歌うことの楽しさを教えてくれた先生や仲間みんな、知り合ったすべての方々に感謝しています。



敬和学園大学 の最新情報

キャンパス日誌

検索

www.keiwa-c.ac.jp /nisshi/



ケータイ付



心躍る出会いとともに

共生社会学科 青山 良子

●私の出会った子どもたち

私の専門領域は社会福祉学です。これまで、大学や専門学校において福祉や医療の専門職をめざす学生と社会福祉を共に学んできました。敬和学園大学には、共生社会学科が開設されて二年目に赴任し、今年で三年が過ぎようとしています。

私について語るにあたって、教育にかかわる以前の社会福祉の現場で、対人援助の専門職として経験してきたことからふれていきたいと思っています。

福祉の現場では、多くの人と出会い、多くのことを学ばせてもらいましたが、その中で、最も貴重な体験のひとつが、厚生省（現 厚生労働省）の職員時代の筋ジストロフィー症の子どもたちとの出会いでした。

拙著『いのち輝く子どもたち』の書き出しに、「こんなふうに書かせてもらいました。

筋ジストロフィー症の子どもたちとの出会いは強烈であった。

筋ジストロフィー症とは、身体の筋肉がだんだんと衰えていく進行性の難病である。そして、多くの子どもたちが若いうちに死にいたるといふ大変厳しい病気である。

今、人のいのちが粗末にされている。他人のいのちに対してだけでなく、それは自分のいのちに対してもである。生きることと真剣であることが軽んじられ、人と人が寄り添うことが敬遠され、面倒がられている。

「いのち」について考えると、当たり前のことだが、人間が大切にいとおしくなる。人間が大切にいとおしくなると自分自身が大切にいとおしく思えてくる。

私に「いのち」について深く考えるきっかけを与えてくれたのは、筋ジストロフィー症の子どもたちとの出会いであった。短いいのちを精一杯生きる子どもたちから多くのことを学んだ。若くして死んでいく子どもたちの「死」は、「生きる」ことへの厳しい問いかけであった。そして、その子どもたちから私が学ん



敬和学園大学の「クリスマスツリー点灯式」が11月30日に行われました。学生や教職員などが集まり、参加者による「きよしこの夜」の斉唱、新井明学長からのメッセージの後、ツリーが点灯されました。このクリスマスツリーは、冬空の中で、地域の皆さまの心を癒す小さな光となるよう、本学の職員が手作りで飾り付けをしたものです。毎年、少しずつ工夫を凝らしながら電飾の数を増やし、今年度は総数8,500灯を使って飾り付けました。

点灯式が終わって数日後に、村上養護学校小学部の子どもたちが、ツリーの見学にいらっしゃいました。日中の訪問でしたが、特別に電飾をつけたツリーの下には、楽しそうにはしゃぐ子どもたちの姿がありました。

もくじ

CLOSE UP「心躍る出会いとともに」… 1	企業との就職懇談会のご報告…………… 10
みんなの敬和祭のご報告 …………… 4	いよいよ本番！2008年度入学試験 …… 10
ふれあいバラエティのご報告 …………… 6	オープン・カレッジのご報告 …………… 11
中越沖地震 災害ボランティアに参加 … 7	同窓会リレー・エッセイ⑤ 布川 聖子… 12
「富塚・のぞみの里」が誕生します … 7	寄付者ご芳名 …………… 12
国際交流インストラクター事業 …… 8	学事予告 …………… 12
AED講習会と危機管理シュミレーション … 9	キャンパス日誌 …………… 13
1・2年生保護者との懇談会のご報告 …… 9	



車椅子での野球が実現!

だことを、誰かに伝えずにはおれなかった。

私は、そんな子どもたちと国立病院の筋ジストロフィー症で、児童指導員として約十年間、共に生きる時間をもらいました。まず断っておかねばならないことは、筋ジストロフィー症の子どもたちは決して特別の子どもたちではないということです。普通に歩いていたのが車椅子になり、その車椅子を動かすことも困難になり、電動車椅子へとなっていく。でも、子どもたちは元気です。遊び、学び、時には恋もし、健康な子どもたちと同じくスポーツも大好きです。

そんな子どもたちとのエピソードのひとつを紹介したいと思います。自分たちの夢を実現させるために精一杯取り組んだ、筋ジストロフィー症の子どもたちによる車椅子野球実現への取り組み、「俺たちの甲子園」です。

<表紙写真>「ようこそ！敬和へ」
福祉施設の皆さまを招いてふれあいバラエティを開催(p.6)

子どもたちのめざした夢は、車椅子野球の全国大会の実現でした。その夢の実現は困難でしたが、他県の筋ジストロフィー症の子どもたちとの車椅子野球を実現させることができたのです。障害が進行して車椅子を自分で動かすこともできなくなり電動車椅子を使用している子どもはもちろん、自力での呼吸が困難で人工呼吸器をつけた子ども、自分で寝返りさえもできない子どもたちもメンバーとして参加し、活躍したのです。そんな重い障害をもった子どもたちが野球なんて…と信じてもらえないかもしれせんね。



虫とり網を使ってボールを捕えます

●灰谷健次郎と教え子のこと
前掲の拙著『いのち輝く子どもたち』の本の副題を「私の出会った子どもたち」につけました。

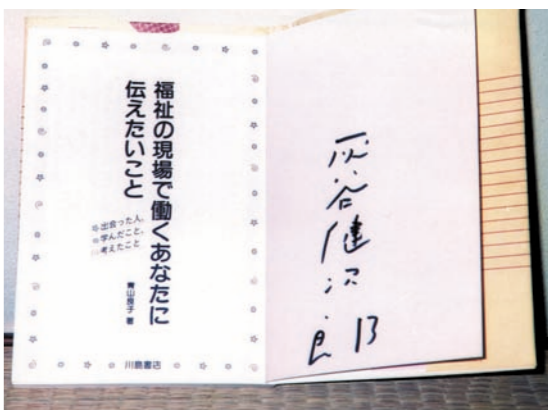
私は、児童文学作家灰谷健次郎の作品が好きです。一九七四年刊行の『兎の眼』以来です。二十年来のファンといえます。

私は、灰谷健次郎の作品の中にあるやさしさと厳しさが好きであり、人間に対する深い信頼感と謙虚さが好きです。

灰谷健次郎に「わたしの出会った子どもたち」という作品があります。灰谷健次郎が教師時代に「わたしの出会った子どもたち」から学んだことが書かれている作品です。私も、筋ジストロフィー症という病気をかかえた「私の出会った子どもたち」からことばでいい表せないほど多くのことを学ばせてもらいました。灰谷健次郎の「わたしの出会った子どもたち」を読めば読むほど、その思いは強くなる一方でした。その思いから、副題に使わせてもらったのです。本来ならば許されないことですが、私の「私の出会った子どもたち」に対する思いの深さと、やさやかな自費出版の小冊子であるがゆえに許していただきたいと手紙で許しを請いました（のちに、川島書店から出版された拙著『福祉の現場で働くあなたに伝えたいこと』に、この内容を入れたときは、もちろん「私の出会った子どもたち」の副題は削除いたしました）。

実は、この話には後日談があります。

私は、医療や福祉の専門職をめざす多くの学生と社会福祉を共に学んできましたが、灰谷健次郎については、特に保育士をめざす



灰谷健次郎さんからサインをいただいた拙書

す学生と多く語り合ってきました。

保育士をめざして埼玉に就職した卒業生から、卒業後かなりの年月が過ぎたところ、一枚の写真が届きました。埼玉で、灰谷健次郎の講演会と著書のサイン会があったとのこと。長い列に並び、「私は、灰谷さんの本はすべて持っています。今日は、私の恩師の本を持ってきましたので、それにサインをしてもらえますか」と頼んだそうです。無謀な非常識ともいえるお願いだったと思いますが、なんと快くサインをしてくださいました。現物は宝物ですので送れませんが…と、そのサインが入った本の写真を送ってくれたのでした。その写真は、私にとっても、大切な宝となりました。

そして、一昨年の暮れ、灰谷健次郎が亡くなったというニュースが報じられた後、

「先生を思い出したので…」とわざわざ訪ねてきてくれたのも、その人でした。

「私の出会った子どもたち」から「私の出会った学生たち、卒業生」へと、人と人との出会いが豊かに広がっていくことになりがたさを感じました。そして、教師をやっているよかったですと心から思えたできごとのひとつでした。

●お酒と花火

私の好きなものということで、灰谷健次郎とそれにまつわるエピソードを紹介しましたが、最後に、私の好きな「お酒」と「花火」の話をして終わりにしたいと思います。

七年ほど前から、田植えから仕込みまで自分たちの手でお酒をつくらうというイベントが始まり、酒好きの私はスタート時からかわらせてもらいました。

最初は田植え、稲刈り、仕込み、絞り



できたばかりの美味しいお酒を手に

酒造りのほとんどの工程に参加させていただき、貴重な体験とおいしいお酒を手にすることができました。ここ最近では具体的な取り組みには参加できず、おいしいお酒のみいただいている「名前のみの会員」になってしまっていることを、申し訳なく、また残念に思っています。

私は長岡の出身です。長岡といえば花火。花火といえば、信濃川の河川敷で打ち上げられる正三尺玉です。私の夏は、長岡花火に始まって長岡花火で終わるといつても過言ではありません。三年前の中越地震の後も花火で元気をもらい、ますます私の花火大好き度は、高まってきています。

呆け老人をかかえる家族の会（現 認知症の人と家族の会）の機関誌のコラム「ひとりごと」にこんな文章を書かせていただきました。

私には、認知症になったら入りたいたいグループホームがある。理由は簡単。長岡まつりの三尺玉の花火が一番近くに見えるところだからである。そこは、私が長年、三尺玉を見ていた場所であり、そこにそのグループホームが建てられた。

私は花火大好き人間である。長岡まつりの八月二日は長生橋で、そして三日は三尺玉が一番近いその場所で花火を見るのが最高の「長岡花火の見方」だと私は思っている。そこで見る三尺玉は、空一面に広がり、思わず正座してしまうくらいの迫力である。

教え子に、「私とそのグループホームに入ったら、『青山さん、もうすぐ三尺玉が見られるね』、そして長岡まつりが

終わったら『また、早く三尺玉が見られるといいね』と、三百六十三日言い続けてくれたらいい。私はそれできつと満足すると思うから。でも、必ず、八月二日と三日の二日間は花火を見せてね。」とお願ひしてある。半分冗談であるが、半分は本気である。

五十歳の後半になり、老いを迎える準備を急がねばならない時期に来ている。豊かな老いを迎えるためには、大切にしたいものが豊かであるほうがよい。これから、花火以外に心躍るものがいくつ増えるであろうか。楽しみである。

こんな私が、今、新たなチャレンジの場として、敬和学園大学との出会いを与えていただいたことを心より感謝しております。これからも、心躍るたくさんの出会いがあることを楽しみに歩んでいきたいと思っています。

青山良子准教授 プロフィール

●最終学歴

日本社会事業大学大学院博士前期課程修了

●研究・演習のテーマ

ソーシャルワークの倫理と価値観について研究している。

社会福祉を学ぶということは、社会のしくみと人間を理解することであると考えている。対人援助の技術や障害者福祉を学ぶ中で、福祉と人間観を学生と共に深めていきたい。

敬和祭

みんなが楽しめた敬和祭



敬和祭実行委員長
菊池 美樹

第十七回敬和祭「Be Together」みんなの敬和祭」を十月二十、二十一日に開催しました。私は昨年度に引き続き二回目の実行委員長として、これまでの経験を活かしながら、参加したみんなで楽しめるこれまでに以上の敬和祭にしようと、実行委員と一丸となって努力してきました。

今回は天候に恵まれず、肌寒い二日間となつてしまいましたが、ご来場いただいた方々の熱気と運営業務の忙しさでそんな寒さも忘れるくらい充実した二日間でした。実行委員のみんなとじっくり相談し、招聘を決めた「いつもここから」のお笑いライブでは、会場に用意した客席がすべて埋まり、立ち見のお客さまも出るほどの盛況ぶりです。これまでの苦労が一気に吹き飛ばす思いでした。他にもミュージック・フェスティバルや東豊小学校金管バンドによるマーチング、外国語スピーチコンテストも行われ、こちらにも多くのお客さまが来てくださいました。学生有志による屋台や展示も好評で、来場していただいたお客さまはもちろん、学生、教職員もみんなが楽しんで、敬和祭を盛り上げてくれました。今年度の敬和祭は私が委員会に在籍していた中でも一番盛り上がり、思い出に残る学園祭になりました。この勢いを止めずに、次期実行委員がつくる来年度の敬和祭に心から期待しています。

仲間たちとの最高の舞台



チアリーダー部
坂井 万里央

「だめ、汚い！全然合っていない！」「そんなお客さまに見せても喜ばれないよ！」厳しいことを言っていると分かっていましたが、部員全員が真剣な気持ちで敬和祭の舞台に臨むために、何よりも見に来てくださる方の期待に応えるために、心を鬼にして練習に打ち込むことが必要でした。

敬和祭での発表は全六曲。たった三十分でしかない小さな舞台発表。それでも私たちチアリーダー部にとっては大きな挑戦です。チアだけでなく、ジャズやヒップホップにも挑戦すると決めたこの舞台を、ほぼ全員が初心者という私たちが成功させるには、ただ努力するしかありませんでした。いくら練習しても納得がいかず、本番が近づいても不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安も本番の一曲目が始まると同時に吹き飛んでいきました。会場いっぱいのお客さまと鳴り響く拍手を前に、まだ一曲しか踊っていないのに胸が熱くなりました。無我夢中で踊り、ふと隣を見れば仲間の笑顔がある。この仲間たちと踊ってきたよかったです。この仲間たちと踊ってきたよかったです。

この敬和祭を最後に私たち四年生は引退しましたが、後輩たちはまた次の発表に向けて練習の日々を送っています。まだまだ成長を続けるチアリーダー部。観客として迎える来年度の敬和祭が、今から楽しみです。たまりません。



敬和祭（一日目）

- ・ミュージック・フェスティバル KEWA 聖籠太鼓「響 shiohoro」
- ・敬和学園高校よさこい同好会「祈愛」
- ・ブラザータイスケ・マス・クワイアー
- ・敬和学園大学ブラスバンド部
- ・シテイブラス越後
- ・屋台・教室展示
- ・骨髄バンクドナー登録会
- ・茶会
- ・茶道部による裏千家の茶会



みんなの

敬和祭



敬和祭（二日目）

- ・「いつもここから」お笑いライブ
- ・&キラキラグッズ抽選会
- ・東豊小学校金管バンドによるマーチング
- ・外国語スピーチコンテスト
- ・英語、コリア語、中国語、ドイツ語、日本語でのスピーチ
- ・屋台・教室展示
- ・FMしばた生中継・収録
- ・チアリーダー部によるダンス
- ・学生ライブ



観客との一体感を楽しめました



敬和学園高等学校
齋藤 こはる

私たちは、敬和学園高等学校よさこい同好会「祈愛」です。祈りに愛と書いて「キアイ」と読みます。名前のとおり、世界中にたくさんのお客さまを届け、世界が平和になりますようにと祈りを込めながら、日々踊っています。

今回の出演は、「祈愛」の先輩である吉田百合さんが敬和祭の実行委員をしていることがきっかけで実現しました。当日の演奏は、お客さまとの距離も近く、二曲目の「インフィニティー」では、皆さんから拍手までしていただきました。そのおかげで、祈愛のメンバー一人一人が自分らしさを出した踊りができ、楽しく踊ることができました。こんなに楽しい敬和祭に出演できたのも先輩方のおかげだと、とても感謝しています。

普段の高校生活の中で大学に行くという機会はないので、とてもよい勉強になりました。こういった機会をこれからも増やし、敬和学園大学と敬和学園高等学校の架け橋になればと思います。

私たちは、九月の「にいがた総おどり」や地域のイベントに参加させてもらっています。「にいがた総おどり」では、他県からもチームが集まり、三日間踊り明かします。機会があればぜひ見に来てください。今回は敬和祭に呼んでいただき、本当にありがとうございました。

God is good all that time !!



ブラザータイスケ・マス・クワイアー
ブラザータイスケ

こんにちは。敬和祭でゴスペルの合唱を歌わせていただいたブラザータイスケ・マス・クワイアーのブラザータイスケです。メンバーで敬和生の五十嵐さんから「学園祭に出演しませんか？」とお話ももらった時に、心から「神様ありがとう」と言っていました。実は、ニューオーリンズから新潟に戻ってきた時から、いつかこの大学で歌いたい！と思っていたのです。

ステージの途中から、ホーリーゴースト（聖霊）が合唱団の音と声に降りてきて、観客の方の拍手や声援にも支えられ、どんどん加速していくのがわかりました。

僕は常日頃、「ゴスペル音楽とは？」という問いに「究極のラブソングです。」と答えています。聖書の第一ヨハネの手紙四章八節に「神は愛」と書いてあります。そのことに感謝し、讃える歌なので、まさに「ラブソング」なのです。

尽力してくれた実行委員会および関係者の方々、暖かくステージを受け入れ一緒につくってくれた観客の方々、仕事や用事を調整し、長岡や柏崎からも駆けつけ集まってくれたクワイアーのメンバー、ミュージシャンたち。これだけ多くの「愛」が集まって実現されたこのステージは、とても祝福に満ち溢れた、誇れるものとなりました。ありがとうございました。

敬和祭

ふれあい、支えられながら
十七回目のふれあいバラエティ

毎年恒例の「敬和ふれあいバラエティ」を十月十九日に開催しました。日ごろお世話になっている近隣の社会福祉施設等の方々を大学にお招きし、学生たちの出し物や緑日などを楽しんでいただくこうという企画です。学生サークル「共生ボランティアネットワーク」を中心とした学生有志による実行委員会が準備し、当日は四十七名のお客さまをお迎えし、心と心を通いあわせました。

「そろそろそんな時期かと思って、お誘いを持っていましたよ！」とのお客さまの声に力づけられながら、参加した皆さまに楽しんでいただくための工夫を年々重ねています。

何かと行事が多く忙しい時期にも関わらず、各施設職員の皆さまのご協力に支えられ開催できることを感謝します。

(ボランティア委員会)



みんな一緒に楽しみました

ふれあう魅力と楽しさを実感!



ふれあいバラエティ実行委員長
新田見 祐企

私は、ふれあいバラエティ実行委員会の代表として実行委員会の仲間たちとともに、夏休み中や授業の空き時間に集まって計画や準備を進めてきました。

今年度はスタッフの連帯意識を高めるために、背中に「PosHEARTS」という文字を入れたスタッフTシャツを作りました。

これは人間が持つている可能性「possibility」と一人の人間としての気持ち「heart」の二つを強調する造語です。私たちはこの意味を理解して、お客さまの気持ちを尊重することを心がけながら、ふれあいバラエティに臨みました。

レクリエーションでは、ブラスバンド部の演奏にあわせて、お客さまがチアリーダー部のメンバーと一緒にダンスを踊り、会場はとても盛り上がりました。また、全員が紙飛行機をつくって、飛距離を競い合うなど、会場全体が一つになって楽しむことができました。たくさんのお客さまが帰りに「ありがとう」と笑顔で言ってくれたので、今年のふれあいバラエティは大成功だったんだと実感できました。

このふれあいバラエティで、福祉施設の利用者の皆さまと交流することの魅力や楽しさを改めて実感できました。来年度は今回の経験を活かして、ますます明るく楽しいふれあいバラエティを企画したいと思えます。

「愛心」のボランティアに感動



国際文化学科一年
姜 玉涛

私は、八月九日と九月十四日の二回、中越沖地震の災害ボランティア活動に参加しました。現地に着いてまず目にしたのは、全国各地から集まった参加者たちが、先を争って仕事を申し込んでいる姿です。とても暑い天気の中、困っている他者のために、「争先恐後」(我先に)の精神がみられることに感動しました。

一回目の活動では、全壊した教会(柏崎聖光キリスト教会)の片付け作業を、二回目には仮設住宅をまわり、岩手県東磐城郡から当日届いた野菜や水を袋につめて配布する手伝いをしました。どちらも時間はかかりましたが、疲れは感じませんでした。

仮設住宅を家賃無料で提供するなど、被災者に対する行政の福利厚生が充実していることに驚き、また、被災者の皆さんが復興に向けてがんばっている姿にも励まされました。活動の翌日には、腕が真っ黒に日焼けしていることに気がつきました。暑い中でみんなと一緒によく労働したなあと思いました。

今回の活動に参加し、日本人の団結、友好、助け合いの精神がよく理解できました。それは敬和学園大学のキリスト教の精神、人間らしい「愛心」なのだと思います。このような機会に参加できたことにも感謝しています。

ボランティア



とりたての野菜を仮設住宅へ

助け合い、支え合う
中越沖地震災害ボランティアに参加

敬和学園大学では、昨年七月の新潟県中越沖地震発生後、災害ボランティア活動を八月、九月にわたって計三回行いました。延べ人数で学生三十一名、教職員二十三名が参加し、猛暑の中、瓦礫の片付け、避難所の清掃等の諸作業に汗を流しました。

現地ボランティアセンターのコーディネートにより、広く県内外から集結した一般の方々とともに作業が行われ、様々な出会いがありました。みんなが、心と力を合わせて活動に打ち込む中で、互いに助け合い、支え合うことの尊さを実感する貴重な機会となりました。

被災地では、復旧・復興にむけて苦労をされている方々が今日も多々いらっしゃることに存じます。微力ながら、何かのお役に立てる機会がございましたらぜひお声かけください。(ボランティア委員長 中村)

みんなと同じ空間を共有



クラレテクノ ちゅーりっぷぶち
苑長 新野 直紀

ふれあいバラエティにご招待いただき今年度三度目の参加になります。まずは毎回楽しんでいただき、ありがたく厚くお礼申し上げます。

お年寄り十一名、スタッフ五名の計十六名での参加でした。毎年参加しているお年寄りもいて、会場に着くと昨年度の思い出話をされたりして、それだけお年寄りやスタッフに印象深い、笑いの絶えない「ふれあい」になっていることが実感できます。趣向をこらした内容に今回も驚きながら、お年寄りも学生さんのパワーに笑顔が引き出されている感じがします。

学生とお年寄りのふれあいの中で一番関心した場面は、飲み物やお菓子の注文をとる際の対応で、きちんと傍らに寄り添って丁寧に顔を見て、目をみてコミュニケーションする姿でした。そうするとお年寄りは自然に「ありがとう」と言って、すごく喜びます。それは学生のさりげない声かけや行動からでてくるもので、スタッフとしてそういった場面を微笑ましく見えています。

「ふれあいバラエティ」の素晴らしところは、様々な人間が同じ空間を共有しあうことです。人はたとえ障害があっても一生懸命に生き、どんな人だって大切で、人は社会を創り、社会から人が創られることを実感させてくれる、社会的にも大変重要な活動だと思えます。次回も期待します。

高齢者むけグループホーム
「富塚・のぞみの里」が誕生します

高齢化が進み、認知症の方も増えていきます。もし自分の家族が認知症になったらどうなるか、と考えることがあります。その方の人生の最終コーナーになるかもしれないそのときを、その人らしく生活することができるようにお手伝いをしたい、との思いでこのグループホームができました。

たとえ認知症になっても、神は一人ひとりを愛しています。その精神をケアの根底に据え、ご家族がその人を大切にされているように、このグループホームでも大切に、一緒に暮らしていきます。経営は社会福祉法人シャローム(理事長・原田史郎牧師)が行い、定員十八名、開設は四月の予定です。場所は大学の敷地をお貸しし、学生もボランティアで奉仕をします。

(事務局長 宇田川)



「富塚・のぞみの里」の完成予想図

子どもたちと新しい価値を創造
国際交流インストラクター事業

ワークショップってご存知ですか？参加型授業ともいわれる、教える側も教えられる側も協働で新しい価値の創造をめざす学習方法です。敬和学園大学の学生が実施している小学生むけ国際理解ワークショップを覗いてみましょう。発展途上国の子どもたちの写真を見て意見を出しあったり、絵を描いたり、クイズやゲームをしたりと楽しくそのうちに参加した子どもたちは世界のことがとても気になりはじめます。

三年前から新潟国際情報大学が始めたプロジェクトですが、敬和学園大学も昨年五月から加わりました。今まで二つのチームが県内各地の小・中学校を訪れ、ワークショップを行ってきました。もちろん、子どもたちにも大好評です。来年度以降も継続していく予定です。（国際文化学科 松本）



楽しみながら国際理解（新潟市立関屋小にて）

試行錯誤でつかんだ自分たちのスタイル



英語文化コミュニケーション学科二年 佐藤 秀尚

私は昨年の夏から、敬和学園大学の仲間たちや新潟国際情報大学の学生たちと一緒に、国際交流インストラクターとして活動しています。この活動は、数名の学生でチームを組み、自分たちで体験し、調査した「国際問題」について、県内の小・中・高校生の皆さんを対象にしたワークショップを開催するものです。

敬和学園大学は今年度初参加だったので、わからないことだらけでしたが、新潟国際情報大学の学生たちとの交換会を何度もしたり、自分たちでのミーティングを繰り返したり、試行錯誤の中で、徐々に自分たちのワークショップの形が見えてきました。

今回、私たちのチームが目指したのは、「楽しい中に少しの驚きをもったワークショップ」です。ゲームなどを交えながら、自然と「国際問題」への興味や疑問を引き出せるように工夫しました。そして、実際にワークショップの時間を子供たちと一緒に過ごし、「勉強ってこんなにワクワクできるんだ！」と自分たちも新たな発見ができて、とても楽しむことができました。

大変な企画でしたが、その分チーム全員が一丸となって取り組むことができました。チームを引っ張ってくれた先輩や、支えてくれた仲間たちには感謝の気持ちでいっぱい입니다。来年度は、さらに踏み込んだ経験ができたらいいなと思っています。

子供たちの楽しい思い出づくり



国際文化学科二年 比企 桃子

二年生になり大学生活に少し余裕ができてきたかなと思っていた時に、たまたま先生に声をかけられ、国際交流インストラクターに挑戦することにしました。

国際交流インストラクターとしての知識をつけ、初めて小学校を訪問した時、ただただ子どもたちの元気のよさに圧倒され、それに負けないようにと必死でした。そして、ぎこちなく、時間に追われ、余裕のないワークショップとなってしまいました。

そんな私に、ワークショップの講師の方やインストラクターとして二年先輩である新潟国際情報大学の学生たちがアドバイスをくれました。それは、私たち学生にしかできないワークショップであることを認識し、「大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に楽しい時間を過ごした」というよい思い出を子どもたちと一緒につくっていくことが、何よりも大切なのだということでした。変に気を使ったり、背伸びをすることなく、私たちが自身も楽しみなが、子どもたちと一緒に世界の問題について理解を深めていくこと、それだけで十分なのです。

その後のワークショップは子どもたちのおしゃべりが中心になってしまっただけ盛り上がり、私自身も本当に楽しい時間を過ごすことができました。まだまだインストラクターとして未熟ですが、来年度はさらに磨きをかけ、また参加したいと思っています。

イザという前に危機管理！
AED講習会と海外留学危機管理シミュレーション

大学は、学生たちにとって多くの時間を過ごす生活の場です。同時に、教育の場は学内だけでなく、地域社会や海外まで広がっています。このような状況の中で、学生たちに最良の環境を提供できるよう、敬和学園大学では、さまざまな危機管理対策を行っています。今年度は、教職員を対象とした「AEDを用いた一時救命措置講習会」および「海外留学危機管理シミュレーション」を実施しました。

「AED（自動体外式除細動器）講習会」は五月に開催しました。この講習会には、十五名の教職員が集まり、「AED」の必要性と使用上の注意等の説明を受けました。突然の心停止からの救命率は5%以下と低いものですが、五分以内にAEDによる「除細動」を行うことにより、大幅に救命率を上げることができるそうです。参加した教



人形を使った一時救命措置の訓練



緊急時の記者会見を疑似体験

職員は、緊急時にもうまく対応できるよう、心肺蘇生訓練用の人形を使った一時救命措置を体験しました。

また九月には、「海外留学危機管理シミュレーション」をJCSOS（海外留學生安全対策協議会）の協力のもと実施し、教職員二十五名が参加しました。今回のシミュレーションは、アメリカに留学中の学生たちがバス事故にあったとの想定で行われました。大学として緊急事故対策本部を設置し、各担当に分かれて適切な対応を迅速に導き出し、他の担当に伝え、行動することを、単なる模擬ではなく現実さながらの緊張感を肌で感じながら体験しました。

今後も敬和学園大学では、さまざまな緊急時における全学的な体制の構築をすすめ、迅速な運用方法を確立していきます。

（総務課、国際交流委員会）

ご家族と連携した学生指導

一・二年生保護者との懇談会

去る十月十三日、一・二年生の保護者の皆さまを本学にお迎えし、「一・二年生保護者との懇談会」を開催いたしました。

第一部では本学の教育内容等について、新井明学長と上野恵美子教務部長が「敬和学園大学の教育」と題し、お話ししました。引き続き行われた第二部は立食の懇談会形式で、保護者の皆さまと平日頃アドヴァイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や今後の学生生活などについて有意義な意見交換を行うことができました。

皆さまからいただきましたご意見は今後の参考とさせていただきますとともに、貴重なお時間を一緒に過ごさせていただきましたことに、深く感謝いたします。

（教務委員会）



普通の学生たちの様子を情報交換

就職

企業との相互理解を深める

就職懇談会のご報告

企業との「就職懇談会」を十一月十五日、ホテル新潟で開催し、昨年度を上回る九十四社（含施設）、百十四名の採用担当の方々にご臨席いただきました。この会は、企業の皆さまに本学の就職支援体制を理解していただき、就職活動を始める三年生の積極的な採用をお願いする重要な催しです。

第一部では、まず桑原ヒサ子就職委員長が本学の就職支援体制について説明いたしました。続いて、環日本海経済研究所理事長の吉田進氏に「北東アジア諸国の新しい動向―それに新潟はどう対応するか」と題してご講演いただきました。韓国・中国等に進出している企業も多く、「大変参考になった」との感想をいただきました。

第二部では、企業の方々と教職員との懇談が行われました。今後の就職指導の参考となるご意見をいただいたり、卒業生の仕事ぶりなどを伺いながら、相互の理解が深まりました。（就職委員会・就職指導室）



企業の方との理解が深まりました



藝文文化ミニセミナー学科三年
鳥崎 潤

懇談会に参加させていただき、実際に企業の方と接するうちに、就職活動では積極的に行動しない限り、自己アピールはできないものだと理解しました。志望する企業から内定を獲得できるよう、前向きに取り組み意欲と緊張感が高まってきました。



国際文化学科三年
長谷川 恵

大勢の採用担当者の方々とお話する機会に恵まれ、大学の授業では知ることのできない職業観について伺い、企業を具体的にイメージできるようになりました。就職活動を間近に控え、その不安を解消でき、さらにモチベーションを高めることができました。



共生社会学科三年
川又 希和子

大勢の企業の方々からお話を伺う中で、自分の進路を再確認できたように思います。私は、社会福祉士の資格を取得し、福祉関係の仕事に就くことを希望しています。懇談会の席上、福祉施設の方々から福祉の現状をお聞きし、自分の進む道はやはりこれだと思いました。

オープン カレッジ

多くのご参加に感謝！ オープン・カレッジのご報告

敬和学園大学が主催しましたオープン・カレッジをはじめとした二〇〇七年度の各種講座が、このほどすべて終了しました。新潟市と新潟市北区のオープン・カレッジは「いのちと環境を見つめる」という共通テーマを掲げ、それぞれの会場で過去最高規模の参加者を迎えることができました。村上市と三条市では、本学教員がファンタジー作品をその時代背景や文学的視点から読み解いていきました。聖籠町での「国際社会とわたしたち」では、国際化社会と日本の現状について、本学の三人の教員がそれぞれの専門分野の観点から分析しました。また、恒例の児童文学連続講座には、児童文学研究者の吉田新一先生をお迎えし、本学の教室を会場に「英米絵本のたのしみ」を開催しました。



絵本の世界を歴史的にたどりました（吉田新一先生）



会場は笑いと愛に包まれました（アルフォンス・デーケン先生）

新潟県内各地で開催したこれらのオープン・カレッジに加え、敬和キッズ・カレッジ「親子写真教室―親子でつくる思い出アルバム」やアルフォンス・デーケン上智大学名誉教授によるクリスマス・チャリティ講演会「生と死とユーモア」、上野千鶴子東京大学大学院教授を招いた本学共同研究グループによる講演とシンポジウム「軍事化の「現在」を問う」、そして共生社会学科主催講演会「今求められる社会福祉実践と福祉思想」（阿部志郎 横須賀基督教社会館名誉館長）なども開催しました。

今年度開催したこれらの講座には、のべ千二百名以上のご参加をいただくことができました。ありがとうございます。本学では来年度もさらに魅力的な講座を開いてまいります。（広報委員長 前嶋）

いよいよ入試シーズン本番！ 二〇〇八年度入学試験

二〇〇七年度のオープンキャンパスも無事に終了し、たくさんの方の皆さんに、敬和学園大学の「学びの感動」と「教育のぬくもり」を体感していただくことができました。十一月十七日（土）には、推薦入試が実施され、指定校推薦Ⅰ、指定校推薦Ⅱ、公募推薦合わせて七十八名が受験しました。この推薦入試については審査の結果、合格が判定されました。AO入試も順調に進んでおり、現在までに十八名の合格が決まっています。AO入試は今後も引き続き、三月末まで面接申込を受け付けています。

これからいよいよ一般入試が実施されます。英語と国語の二科目型で、本学・新潟・長岡・上越・鶴岡・会津若松と六つの試験会場を設けているA日程入試、英語と国語から選択するB日程入試、そして、学科試験を課さない課題面接型のC日程入試など、受験生の学びの意欲に応え、さまざまな能力を評価するための多様な入試を用意しています。

また、一月十九、二十日に全国一斉に行われる大学入試センター試験の成績で合格を判定するセンター試験利用入試も第一期から第三期まで三回の募集を行います。この試験では本学独自の二次試験は行いません。必須科目の英語と選択科目の二科目で判定します。第一期募集では、成績最優秀者には入学金の全額と授業料の半額を、成績上位者には入学金と同額を入学年次に支給する奨学金制度もあります。

大学の見学や進学、学生生活に関するご相談も随時受付けております。皆さまの知り合いに大学進学を考えている方がいたら、ぜひお気軽に入試室までご連絡いただき、お気軽に申し込みをさせていただきます。（入試委員会・入試室）

2008年度入学試験日程

入試区分	出願(面談申込)期間	試験日	試験会場	選抜方法	
AO	A 0 I	6月1日(金) ~ 3月28日(金)	随時設定	本学	面談(2回)、出願書類
	A 0 II	6月18日(月) ~ 3月28日(金)			面談(1回)、出願書類
一般	A日程2科目型	1月4日(金) ~ 1月22日(火)	1月27日(日)	本学、新潟、長岡、上越、鶴岡、会津若松	英語、国語、調査書
	B日程1科目型	1月4日(金) ~ 1月25日(金)	1月30日(水)	本学、新潟	英語、国語より1科目、調査書
	C日程課題面接型	2月11日(月) ~ 3月6日(水)	3月11日(火)	本学	面接(面接のみの課題が与えられます)、調査書
センター	第1期	1月4日(金) ~ 2月1日(金)	1月19日(土)、 1月20日(日)		英語、他1科目(全科目が選択)、調査書
	第2期	2月11日(月) ~ 2月26日(火)			
	第3期	3月4日(火) ~ 3月20日(木)			
社会人・シニア	6月1日(金) ~ 3月28日(金)	随時設定	本学	面談(2回)、出願書類	

※AOIは面談型、AOIIはオープンキャンパス参加型

大学進学・入学試験等についてのお問合せは、本学入試室 ☎〇二〇二〇ー二六
ー三三三七)までお願いいたします。

キャンパス日誌

- 10月 3日 教授会
5日 教養リフレッシュ・リトリート
6日 共生社会学科公開学術講演会(写真)
12日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑬
13日 1・2年生保護者との懇談会(保護者45名、教員13名)
16日 聖籠町オープン・カレッジ①(28名)
17日 新潟東高校大学見学(生徒40名、教員2名)
18日 三条市オープン・カレッジ①(35名)
19日 第17回ふれあいバラエティ
20日 第17回敬和祭(～21日)
21日 外国語スピーチコンテスト、オープンキャンパス⑤
23日 聖籠町オープン・カレッジ②(24名)
25日 三条市オープン・カレッジ②(31名)
26日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑭
27日 大学オープン・カレッジ②(132名)
28日 新津高校イングリッシュ・セミナー(生徒52名)
30日 聖籠町オープン・カレッジ③(22名)
31日 教授会
11月 1日 推薦、帰国子女、編入学試験 出願(～9日)

- 2日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑮
7日 企業との就職懇談会(ホテル新潟、94社)
9日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑯
10日 戦争とジェンダー表象研究会・シンポジウム(写真)
16日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑰
17日 推薦入試
19日 社会福祉援助技術現場実習2(～12月1日)
21日 教授会
23日 推薦入試合格発表
29日 理事会
30日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑱
12月 1日 大学・高校合同クリスマス研修会(敬和学園高校)
5日 教授会
7日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑲
8日 クリスマス・チャリティ講演会
12日 留学生を支える会奨学金贈呈式
14日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑳
21日 クリスマス燭火礼拝
23日 キャロリング、クリスマス・パーティー
29日 冬期特別休業(～1/4)

初めは慣れない育児に不安や戸惑いもありましたが、今では子どもの成長とともに私自身も母親として成長しているように思えてきました。「ハイハイができた」「つかまり立ちができた」子どもの成長と可能性を目の当たりにし、驚きと発見の毎日です。そして子どもがいることで、今まで以上にたくさんの人たちとの交流ができ、自分の視野も広がってきたように思います。私が大学生活で得たものは、かけがえないものばかりです。その経験を子どもたちにも教え伝えていけるよう、これからもがんばっていききたいと思えます。今まで出会った人たちに感謝します。

敬和学園大学を卒業して二年が経ちました。在学中は教職課程を履修し、毎日の授業や課題、そしてアルバイトと日々多忙ではありましたが、とても充実した学生生活を送ることができました。



同窓会レリー・エッセイ⑤
二〇〇五年度卒業 布川 聖子(旧姓 内山)

去る二〇〇七年十月に国際文化化学科の平井悠介さん、十一月に英語文化コミュニケーション学科の吉野勝久さんがお亡くなりになりました。お悔やみを申しあげますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

- 一般 細見 昌平
河上 正義
澁木 貴子
日本基督教団新潟教会 婦人会
一九九一組 皆川 靖
一九九二組 坂爪 直樹
一九九三組 桑原 裕美
一九九四組 長谷川 政和
一九九五組 加納 甲矢太郎
二〇〇一組 渡邊 佳寿美
二〇〇二組 長谷川 緑
二〇〇三組 遠藤 佑介
学園関係 新井 明 3
北垣 宗治
敬和学園大学 後援会 3

寄付者ご芳名

- ◆一 月
五日 講義再開
十日 卒業論文提出締切日
十五日 補講日(～二十一日)
十八日 後期講義終了
十九日 大学入試センター試験(～二十日)
二十一日 後期末試験(～二月二日)
二十七日 一般(A日程、外国人(二期)、編入(二期))入学試験
三十日 一般(B日程)入学試験
三十一日 社会福祉現場実習2報告会
◆二 月
一日 一般(A・B日程、外国人(二期)、編入(二期))合格発表
三日 春期休暇(～三月三十一日)
四日 後期集中講義期間(～八日)
八日 センター利用入試(二期)合格発表
十三日 後期末試験(～十五日)
十五日 学内合同企業説明会
二十六日 再試験(～二十七日)
◆三 月
三日 蔵書点検(～二十五日)
七日 センター利用入試(二期)合格発表
十一日 一般(C日程、外国人(二期))編入(三期)、入学試験
十三日 一般(C日程)、外国人(二期)編入(三期)、合格発表
十九日 卒業式・卒業謝恩会
二十二日 センター利用入試(三期)合格発表
三十一日 学年終わり

学事予告